

子どもの本だな 53

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

こぐまのくまくん

E・H・ミナリック ぶん
モーリス・センダック え
まつおか きょうこ やく (福音館書店)

きょうは、くまくんの誕生日。もうすぐともだちがパーティーにやってきます。ところがおかあさんがいません。バースデーケーキもありません。そこでくまくんは、お鍋ににんじん、じゃがいも、えんどうまめ、トマトをいれてバースデースープをつくりました。プレゼントを持ってやってきためんどり、あひる、ねこは「なんだか、とってもいいにおい!」とスープを食べはじめました。そこへ大きなケーキを持ったおかあさんが入ってきて、バースデーパーティーがはじまりました。他3編。

親と子の心暖まる会話の中に、空想やユーモア、思いやりがあふれ、ペン画に淡彩の表情豊かな絵で一層楽しいお話になっています。絵本から物語へと手をのばす時期にふさわしいお話です。
(西村)

べんけいとおとみさん

石井 桃子 作
山脇 百合子 絵 (福音館書店)

ある家に、かずおとまりこの兄妹と、ねこのおとみさんと、犬のべんけいが住んでいました。ある日、かずちゃんは学校、まりちゃんは幼稚園へ行ってしまい、べんけいはとても退屈していました。かずちゃんと一緒に学校に行きたいべんけいは、字を書く練習を始めました。チョークを口にくわえ、お母さんのお手本を見ながら何度も黒板に書いて、やっとうろよろな字で「べんけい」と書けるようになりました。(「べんけいの勉強」)

他にも、べんけいが壊したうさぎの置物の変わりに、おとみさんがうさぎになる「おとみさんのお正月」、おとみさんの見事な作戦で芋や栗や枝豆をどっさり手に入れる「おとみさんのお月見」など、四季折々の行事と共に、かずちゃんたちの1年がユーモアあふれる文章と親しみやすい絵で描かれています。読んでもらえば4、5歳から楽しめます。
(池之上)

3月	4月	3・4月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
8日	12日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
15日	19日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
29日	26日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30



折り紙の楽しみ

ユーモラスな動物や、色紙を組合せて作るコマ。春休みに折り紙を折ってみませんか。

日時：3月23日(金)
14時~15時30分
定員：小学1年~6年生
(15名)
会場：図書館・読書会室
*申込が必要です。詳しくは
お尋ねください。

『138 億年宇宙の旅』 クリストフ・ガルファール著 塩原 通緒 訳

早川書房 510 頁 2017 年 11 月刊 2,400 円 (請求記号) 443.9

今から一三八億年前、宇宙は生まれた。その直後、宇宙は一瞬で急膨張し、発生した膨大なエネルギーによって加熱され、ビッグバンが起きた。それから宇宙はゆっくりと膨張を続けている。小さな粒子が集まって原子が生まれ、星が生まれ、星は自分のエネルギーを使い果たすと爆発を起こして、また次世代の星の材料となる。宇宙は静止しているのではなく、恒星も惑星も、恒星が何億個と集まった銀河も、すべてが高速で回りながら、より大きなものの周りを回っている。個々の銀河やブラックホールは、互いに引き寄せあい、時に衝突し、合体する。

宇宙はただ地球の周りにあるもの、常に変わらず、星も宇宙で永久に輝いているものと思っていた私を、著者は、想像力を使うことで、まるでそばで見ているかのような宇宙の旅へ連れ出す。

第1部は空間の旅である。五十億年後の太陽の終焉、天の川銀河の中心にあるブラックホール、目に見える範囲での宇宙の果てにある壁へ。

第2部は、宇宙の誕生から現在までの宇宙の歴史と、科学者が宇宙をどうとらえてきたか、宇宙論の歴史を語る。地球規模では完璧だったニュートンの万有引力の法則は、太陽系規模では誤差がでるのだが、アインシュタインの一般相対性理論によって説明がつくようになった。重力とは、物質の周りの宇宙の素地(空間と時間)が曲げられ、それに沿って物質が滑り落ちていくこと。重力の強弱によって時間の進み方も変わってくるという。GPS衛星が働いている上空2万kmでは、重力が弱いので時間が速く進むが、高速で動いているものは時間がゆっくりと進む。GPS内の原子時計はその誤差を計算して補正されている。時間は、重力や速度に影響されて変化する相対的なものなのだ。

第4部の量子世界に入ると、自分の「常識」の範囲を超え、理解不可能になってくる。理解することはあきらめ、ただこうなっているのだと受け入れ、この宇宙のすべてのものは目に見えない小さな粒子でできていることを感じるだけだった。科学技術の進歩と発見の積み重ね、科学者の思考の集大成によって、それまで信じられてきた理論よりさらに高度な理論へと発展すること、現在もそれが続いていることに驚嘆する。

(池田)

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

* カレンダーの×印は休館日。

* は館内整理日。返却のみ受けつけます。(10:00~17:00)

* 開館時間は10時~18時。金曜日は20時まで開館。

地下水

1983(昭和58)年に開館した図書館は5月に開館35周年を迎える。それに先立ち先月、元図書館長の小寺啓章さんに「心に一粒の種をまく 子どもがよい物語を持つ意味」と題して講演をしていただいた。当日は、図書館員やボランティア、保育所・幼稚園・小中学校の教諭、保護者、そしてかつての子どもたちまで大勢の方が、小寺さんの集大成ともいえるべきお話に聞き入った。『がんばれヘンリーくん』『宝島』『アーサー・ランサムやサトクリフの作品がなぜ子どもたちをひきつけ長く読みつがれてきたのか、物語の文体を手掛かりに、図書館や学校で出会った子どもたちの反応や言葉を紹介しながらお話してくださった。ユーモアをまじえながらの90分間は楽しくも厳しく重く、背筋を伸ばし歩き続けようと思わされた。その一週間後には「13歳からの読書会」を開催し、高校生や大学生、中学・高校の教諭、子どもの頃から図書館を利用してきた人たちが『トム・ソーヤーの冒険』の感想を話し合った。ささやかな集まりながら本の楽しみを分かち合うことができた。

4月から図書館は新たな館長に引き継がれる。これからも図書館に集う子どもたちに、選り抜かれた最上の物語を手渡し続けることだろう。

(片木)

